

5月28日
日曜日京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.
発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通堀川上ル

凡語

国の重要文化財に指定されることが決まった京都府大山崎町の聴竹居は京都帝国大教授の建築家・故藤井厚二氏の旧自邸。エコ住宅の先駆けとされる

▼小欄で先に地元の保全活動や竹中工務店の取得を紹介したが、吉報を喜びたい。昭和初期名作群の前途にも光明を見いだせる

▼藤井氏に師事した故澤島英太郎氏が設計し1933年に建った住宅が向日市にある。英文学者・故寿岳文章氏の「向日庵」だ。今は空き家だが、民芸の意匠を取り入れ、こちらも近代和風建築として高い評価を受けている

▼寿岳氏はダンテ「神曲」翻訳や民芸運動、和紙研究の先駆者で有名。妻は随筆家の故しづ氏、長女は国語学者の故章子氏。一家の残した学問的業績と邸宅の文化的価値を発信するため、ゆかりの市民有志が保存・活用や文化財指定を目指し、活動を本格化させている

▼「個々の方向性は違いが、その全体像である向日庵は、非戦の誓いや人類愛、自然との共存や相互扶助の尊さを訴えかけてくる」。寿岳氏に薫陶を受け、一家の業績に詳しい中島俊郎甲南大教授は今日的な意義を指摘する

▼聴竹居と似た工夫が施され、戦後は国際交流の場にもなった。地域の貴重な文化遺産を街づくりに生かし、どう未来に伝えるか。重い命題と向き合う市井の営みを応援したい。